龍城山下の仲間たち

TBSテレビ 60周年特別企画

「天皇の料理番」

プロデューサー
石丸 彰彦さん（高45）

〈プロフィール〉
中央大学時代水泳で日本記録樹立
97年TBS入社 編成部編成企画総括
主なプロデュース作品
「世界の中心で、愛をさけぶ」「白夜行」
「華麗なる一族」「ROOKIES」
「JIN～仁～」「とんび」他

◆いよいよ最終章に近づいてきた「天皇の料理番」ですが、作品の見どころは？

石丸　どうしようもなかった男がどうしようもなく料理に夢を見たお話です。
夢は一人では叶わなくて
夢は一日でも叶わない・・。
人々の愛がその男を大きくしていった・・・
そんな「愛」を感じてくれたら良いな～と思って創っています。

◆高校時代に現フジテレビ社長亀山千広さん（高27）の講演を聴いたことがプロデューサーになられたきっかけだそうですが、ドラマのプロデューサーとは？

石丸
・企画の立案
・キャスト&スタッフのキャスティング
・脚本家と脚本を創る（満足するまで）。
・宣伝パッケージを考える（屋外広告展開・キャッチコピー・SPOT映像など）。
・出演するキャストに役柄のイメージを伝える。
・ロケ&スタジオの収録時の安全管理
・予算の管理（技術費はいくら等細かく差配）
・主題歌&劇中音楽のイメージを考え伝える（決める）。
・監督が編集したもののチェック
・監督が音楽入れ&音入れをしたものをチェック　などなどです。
番組全体のトータルパッケージを考え、運営していくというのが一番短い説明だと思います。

◆まさに「天皇の料理番」という会社の社長ですね。ご自身の就職した当時と比べてテレビ界は変わりましたか？

石丸　就職した当時より多チャンネル化が進んでいます。リアルタイムで見るべきだったものが、放送が終わったらすぐにネットで見れるようにもなってきました。

◆オンデマンドですね。

石丸　インターネットというものも90年代よりかなり進んでいます。単純に広告収入のことから見ても視聴率だけでは計れないものになってきていると感じます。

◆録画して見る方も多いですしね。構想から企画が通るまでの時間は？

石丸　企画の構想期間は人によってまちまちですし、企画によってもまちまちです。長いものならば構想から放送まで3年というものもあります（JIN～仁～はそうでした）。

◆「JIN～仁～」は江川邸でも撮影し東京国際ドラマアワードプロデュース賞など多くの賞を受賞されましたね。

石丸　常にどういう企画をドラマでやるのか等は、無意識ですが365日考えているのではないでしょうか。放送後も、最終回の放送まで視聴率で一喜一憂せず地に足をつけ、最初に思ったテーマを大事にしていくことが一番だと思っています。

◆時代背景の表現も見事だと思いますが、見習いコックさんの寮には驚かされました。

石丸　実際の部屋の写真も何も残っていないので・・・。見習いの給料などを考え美術&監督とイメージしてあのような寮にしています。

◆ところで、前作「とんび」の野球の場面は韮高での撮影でしたね。

石丸　まさかこういう形で母校に行くとは思っていなかったので不思議な感覚でしたね。ただ、神奈川出身で韮山高校の存在を知らなかった内野聖陽さん（父親役）が「優秀な学校なんでしょうね、生徒の方々が全員挨拶をしっかりしてくれますよ」と言ってくれたのは、素直に嬉しかったです。

◆高校時代は水泳部だったそうですが…

石丸　小学1年から水泳をやっていて、小学校・中学校と全国大会で優勝したりしていたもんですから、普通に水泳部に入りました。高校3年生の全国高校総体（宮崎）の時に、高校ランキング3位で臨んだんですが、台風で順延になり、あろうことか予選から決勝ではなく、一発決勝になってしまったことですね。思い出は・・。低血圧なものですから、午前中は弱くてヘロヘロで7位だったことは、今だから笑える話です。しかも順延になったことから、飛行機で帰る日が200M背泳ぎの日になってしまい、昼ぐらいに飛行機が出発だったので、前の日の夜、当時の顧問の先生から「相談があるんだけど、明日出るのやめてくれない？」と言われた時は、倒れましたね。結局出て、水着のままタクシーに乗り込んで空港まで行きましたが。

◆そのままドラマになるような思い出ですね。韮高で学んだことで、今生きていることはありますか？

石丸　発想の自由。広がりですかね。校風と言うか、学校のムードがのびのびとしていたので、色々なイマジネーションを感じる術を学んだような気がしています。

水泳部のお仲間から、まさに「ジャイアン」だった（笑）と漏れ聞こえてきましたが、数々の作品を世に送り出し続けている石丸さん。今作は、全12話。放送時間もその回によりまちまちです。「それはまさに石丸さんの力の為せる業であり、BESTは何かを最後の最後まで、一点の妥協も無く突き詰めているからこそ、その姿勢が周りを動かすのだと思います。」とプロデューサーのお仲間が教えて下さいました。
今後の益々のご活躍を期待しています。

☆同窓会ホームページ「龍城のWA！」に掲載したものをまとめさせて頂きました。